

Vol.21 2010.6.29

1 2 平面図 DATA

機能に従う彫刻的な造形美。  
自然の恩恵を最大限に享受する都市住宅  
「Tレジデンス」

取材・文 / 内田みえ 写真 / 増子智美 (FOTOTECA)



(1) 2階の階段から玄関に向かって。北西側の端から端まで取られたトブライトから日が燦々(さんさん)と降り注ぐ階段ホール。太陽の動きと共に光と影が移ろうドラマティックな空間だ。階段は踊り場を設けて、3層の行き来が軽やかなものとなるよう配慮されている。

都心の密集地に立つ、まるで彫刻のような外観のRC造の建物。エッジの効いたフォルムをナチュラルな木目仕上げの壁が和らげ、品格と落ち着きを醸し出している。大きな木のドアを開けると、重厚な外観からは想像もつかなかった明るく大空間が開け、美しい階段が上階へと誘(いざな)う。吹抜けのトブライトから飛び込んでくる青空が外よりも空を近くに感じさせ、開放的な空間に意表を突かれつつも、無意識のうちに足はどんどん階段を上っていく。

光を祝福する、東京の住宅。  
機能と美しさの融合。

地階には車庫と書斎、客室を設け、1階に主寝室と子供部屋、2階にリビング・ダイニングを設けた「Tレジデンス」は、リカルド・トッサーニさんによる設計。施主の要望は、「広くてモダンな空間」「都心の住宅としてクオリティの高い建築」だった。

「私の建築の特徴は、第一に自然の光を祝福する建築であることです。特に東京のように土地の狭い、密集した場所では、出来るだけ光をたくさん採り入れて、健康的な明るい家、太陽に感謝できる家にするのが重要だと考えています。次に挙げられるのが、オープンなスペースと機能に従う彫刻的な美しい造形です。クライアントの要望に加えて、こういった要素を盛り込んだ東京の新しい住宅スタイルを提案しました」というトッサーニさん。

光を得るため、必然的にリビングは上階となり、大きな開口とルーフ・テラスも大



(2) (3) 密集する住宅街の角地に立つ「Tレジデンス」。左は、玄関ファサード。RCの建物は、木目仕上げで品格のある落ち着いた表情。彫刻的な造形美は、機能そのままの現れでもある。

切な要素となる。この住宅では、人を招く機会も多いことから、屋上を第二のリビングとし、2階よりテラスを回してリビングから屋上への動線も考慮した。各部屋は間仕切りを極力少なくし、仕切る必要のある所は引き戸を設け、使い方によって変化する空間を用意している。2階のリビングとキッチンは仕切らず、広々としたワンルームに。子供達の遊び場用にキッチンの脇に設けたサンルームは、突然の来客時には目隠し出来るよう、引き戸を取り付けている。地階の書斎も、客室との間は引き戸、廊下との間は可動間仕切りで仕切り、ゲストのいない日常は書斎を開放的に使えるようにしている。

「機能に従う彫刻的な美しい造形」というのは、機能が形をつくるとするモダニズムの思想を組みつつ、その形が機能美に加え、彫刻のようなアーティスティックな造形美をも併せ持つことを目指している。リビングの造り付けのAVボードや暖炉、キッチンカウンターやその回りの収納壁、主寝室などの造作家具、屋上のパーティーシンクも然(しか)り。屋上への階段の形がそのまま現れているリビングの天井も同様で、いずれもその形自体が空間の装飾ともなっている。これらの要素が一つとなり、家の要(かなめ)ともなっているのが、玄関から続くトブライトを設けた吹抜けの階段ホールである。降り注ぐ光に移ろう影が、空間を生き生きとさせ、上り下りが苦にならないよう機能から導かれた階段の形は彫刻的な美しさを併せ持つ。さらに住み手が家に帰って来た際に「帰宅を祝福する空間」として、劇場のようなドラマティックな空間となるよう考えたという。



(4) 階段ホール。白い塗装壁、木目仕上げのRC壁、木製の階段にガラスの仕切り、アールの美しい木製手すり、素材や仕上げのバランスがうまく取られた温かみのあるモダンデザイン。



(9) パーティー用にステンレスのシンクが設けられた屋上。左端がリビングに現れていた階段。

(5) (6) リビング・ダイニングが広々と設けられた2階。キッチン奥からリビングに向かって(上)。その見返し(下)。キッチン奥には屋上へと続くテラスが設けられ、パーティーの際の動線も考えられている。キッチンのテラス側には子供の遊び場にサンルームをとり、引き戸で仕切るようにした。

(7) (8) 機能と造形美が融合したキッチンカウンター。収納も壁面にきっちりと美しく。左の木部の壁には、床暖房などそれほど頻りに使用しないコントロールパネル類を納め、室内に露出しないよう配慮した。(上) 床の間のようにデザインされたリビング収納と暖炉。右上にはテラスから回る屋上への階段がそのまま室内に現れている。道路側の大きな開口には、夏の日差し対策として屋外に日除けスクリーンを設置。屋上に設置したセンサーで自動的に昇降する。写真はスクリーンを下ろした所。

Vol.21 2010.6.29

1 2 平面図 DATA

## 機能に従う彫刻的な造形美。 自然の恩恵を最大限に享受する都市住宅 「Tレジデンス」

取材・文 / 内田みえ 写真 / 増子智美 (FOTOTECA)



(10) 主寝室。仕上げを変えた壁や造作家具が装飾となり、建築自体が多様な表情を生み出している。正面の壁の中が浴室。

### 自然素材の持つ表情が、 そのまま装飾となる。

2階から階段を下り、1階の踊り場から各個室へ。そこからまた玄関へ戻って地階へと回ってみると、改めて階段の移動が楽で動線も考えられていることを感じる。そして、その動線上で多彩なシーンに出会えることや、地階と1階は天井高の違う空間がパズルのように構成されていることなどに気がつく。玄関ホールのレベルを基準とすると、地下は半階分ほど下がり、主寝室は玄関から1階分の階段を上ったレベルに、子供部屋はそこからさらに4段分階段を上った所に設けられている。主寝室やリビング・ダイニングなどメインの空間の天井を高くとるために、スキップフロアのような複雑な床レベルとなっているのだ。そして、それらの空間をスムーズにつなぐため、踊り場や回遊する動線などが同時に考えられ、それが多彩なシーンを生み出すことにつながっていたわけだ。

その床のレベル差は光を採り込む窓の位置とも関係している。密集地でただ単に開口部を設けても、カーテンで閉めきった窓をつくるだけでは意味がない。そのため視線が合わないよう近隣の住宅とレベルを違え、視線の抜けた所や、近所の庭が借景となる場所に窓を設けるなど、計算されている。階段ホールは隣の家と接している空間だが、トップライトからは空だけしか見えない。絶妙な間合いだ。

また、大きな開口を取ることで増える夏場の冷房にかかるエネルギー消費を省くために、リビングの窓の外には日除けスクリーンを設置するという配慮もしている。



(11) 主寝室は浴室にトイレ、パウダールームを内包。入ってすぐ右側にドレッサー、洗面台と続けて造作されている。その先のドアがトイレ。左側の木の壁で覆われた所が浴室。木の壁内に引き戸が組み込まれていて、仕切れるようになっている。



熱い日差しを外部でカットすることで大きな省エネとなり、CO2の削減にも貢献する。

水まわりの空間も機能とデザイン性をうまく両立させている。特に挙げたいのは主寝室。施主からはバスルームとトイレがついているオンスイートの寝室を希望されたという。欧米では一般的なスタイルだが、水まわりを組み込む設計は面積的に余裕がないと快適性や使い勝手などがなかなか難しい。その点、この主寝室は浴室の配置によってうまく解決されている。浴室を中央に置き、その浴室でベッドスペースと水まわりを仕切ること、仕切り壁やドア、通路の必要なく空間を構成。入り口から浴室までの片側の壁には、ドレッサー、洗面台と続けて造作し、その先にトイレを置いて水まわりをまとめ、もう片側の浴室の壁に引き戸を設けて水まわりスペースを仕切れるようにしている。ベッドスペースから水まわりは目に入らないため寝室の雰囲気は損なわれることなく、動線もスムーズだ。

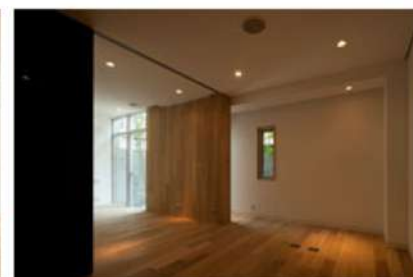
浴室は、より空間の広がりを感じられるようガラスで仕切られ、内部はやさしい色合いの大理石張り。ファミリーでも入ることができるよう、ゆったりとしたスペースに大きな浴槽がしつらえられている。浴槽は、スペースに合わせて扇形が選択された。コーナーにすっきりと納まり、ラグジュアリー感も醸し出している。

さらにトッサーニさんは加える。

「私が提案するモダニズムは、真っ白な空間のような無機質なモダニズムではありません。自然素材といったナチュラルで美しいマテリアルを用い、それら素材の自然の美しさをそのまま装飾としてインテリアをつくっているのです。例えば、この住宅では、床や要所所の壁にオークの9ミリ厚の無垢材を用いています。リビングの暖炉にはトラバーチン(大理石の一種)を自然のまま、穴を塞がずに使いました。シックではあるが、無機質ではない、侘び寂びのある空間となっているんです」。

リビング、階段ホール、主寝室などの壁は、木、板目のRC、白い塗装と3つの素材と仕上げで構成され、凛とした中に豊かさが漂っている。

さまざまな機能を考慮した結果の形が、そのまま建築となり、インテリアとなり、装飾となるのが、トッサーニさん流の設計術であり、その彫刻的な造形美とそこから生まれる心地よさは彼ならではの感性のなせる技である。それは、もちろん天性のものであるが、インタビュー中、何度か耳にした「祝福(blessing)」という言葉も大きく作用しているように感じた。洋の東西、表現の違いこそあれ、その「祝福」という言葉は、神＝自然への祈り、その恩恵への感謝を表す言葉であることには違いない。建築をつくるということは、自然との関わりであり、自然との共生でもある。自然への畏敬の念と感謝があって、はじめて建築に命が吹き込まれるのではないだろうか。



(16) (17) (18) 地階の書斎と客室。左が書斎で、廊下側は折れ戸式の可動間仕切りになっている。右、奥にガラス壁が見えるのが客室で、書斎とは中央の収納壁と引き戸で仕切られる。(左) 書斎入り口から奥に向かって。客室の奥のドライエリアは坪庭のように植栽を施し、視覚的にも心地よい抜けをつくっている。(中) 客室のフロストガラスの箱の中には、シャワーブースにトイレ、パウダールームが組み込まれている。各スペースは透明ガラスで仕切られ、コンパクトに美しく納まっている。(右)



(12) (13) ガラスで仕切り、視覚的にも開放的にしつらえた浴室。右がトイレ。(上) 大理石張りの浴室は、コーナーを利用して扇形の浴槽を設置。限られたスペースを最大限に活かし、使い勝手と意匠性が両立している。(下)



(14) (15) 子供用浴室。窓はシートを張って、光だけ採り入れられるようにした。(上) 清潔感漂う子供用のパウダールーム。シンプルな造作カウンターは、さりげない美しいプロポーション。

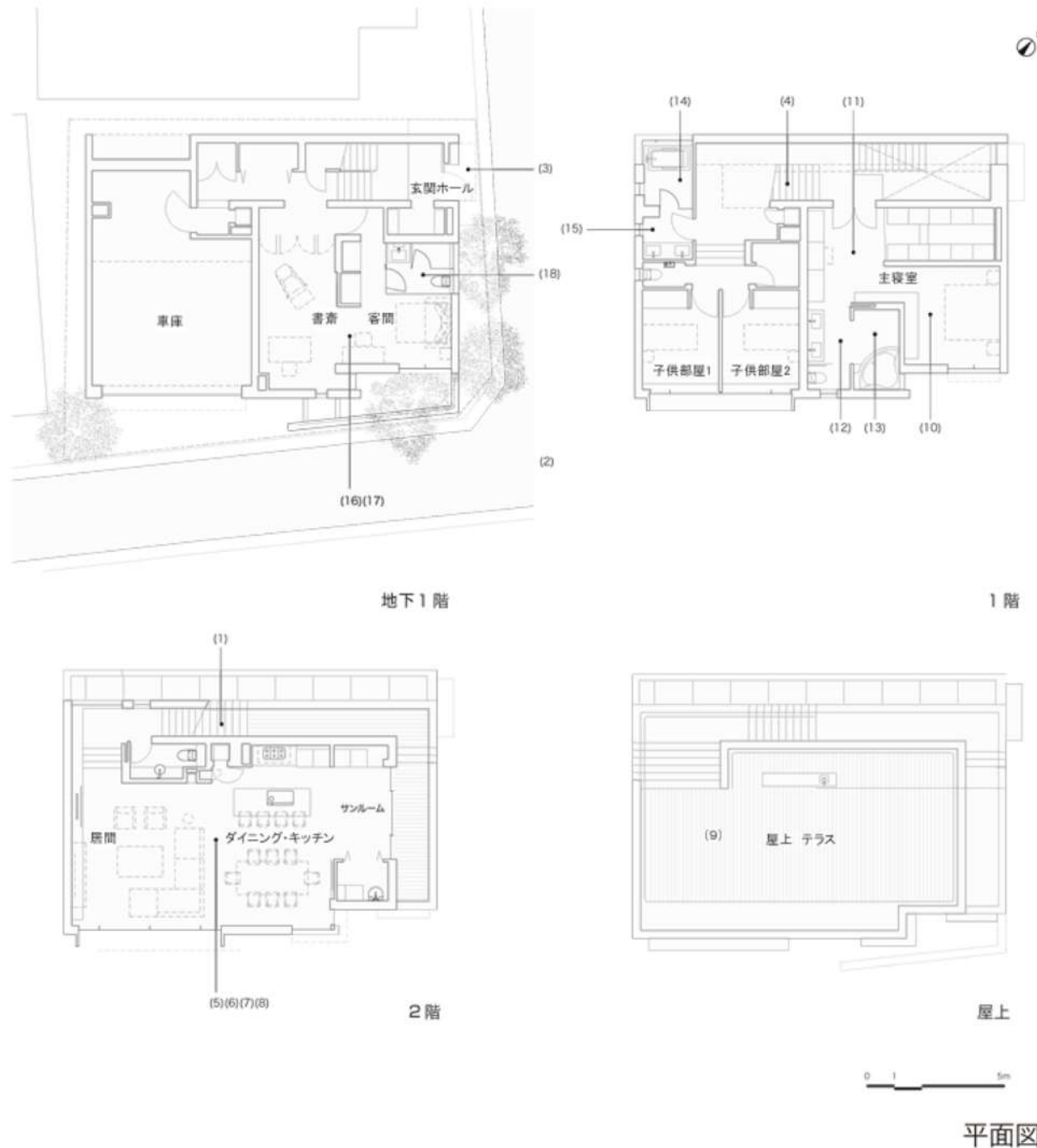
Vol.21 2010.6.29

1 2 平面図 DATA

機能に従う彫刻的な造形美。  
自然の恩恵を最大限に享受する都市住宅  
「Tレジデンス」

平面図

※ (1) - (18) の番号は、本文中の写真に表示されている番号と対応しています。



平面図

Vol.21 2010.6.29

1 2 平面図 DATA

機能に従う彫刻的な造形美。  
自然の恩恵を最大限に享受する都市住宅  
「Tレジデンス」

取材・文 / 内田みえ 写真 / 増田智美 (FOTOTECA)

DATA

Tレジデンス

所在地 / 東京都渋谷区  
 主要用途 / 専用住宅  
 敷地面積 / 174.25m<sup>2</sup>  
 建築面積 / 120.45m<sup>2</sup>  
 延床面積 / 272.42m<sup>2</sup>  
 規模・構造 / 地下1階、地上2階 鉄筋コンクリート造  
 竣工 / 2010年5月  
 設計 / 株式会社リカルド トッサーニ アーキテクチャー  
 構造設計 / ストラクチャード・エンヴァイロメント  
 施工 / 株式会社アイガー産業

おもなTOTO使用機器

**主寝室**  
 浴室  
 スーパーエクセレントバス / PVS1400J  
 洗面器 / L620  
 トイレ  
 ネオレスト ハイブリッドシリーズAHタイプ / CES9784

**子供部屋**  
 トイレ  
 ネオレスト ハイブリッドシリーズAHタイプ / CES9784  
 壁掛手洗器 / LSH40AASR  
 水栓 / TLC11C  
 洗面室  
 角形洗面器 / L620  
 シングルレバー混合栓 / TLC31  
 浴室  
 ラフィア / PHS1510  
 2ハンドルバス水栓 / TBC20  
 サーモスタット シャワー金具 / TMHG40JQR

スライドバー / TS131A1

**客室**  
 浴室  
 角形洗面器 / L620  
 トイレ  
 ネオレスト ハイブリッドシリーズAHタイプ / CES9784



地階から2階まで続く、光にあふれた開放的な階段ホールを持つ都市住宅。敷地面積を活かした濃密な機能が、そのまま彫刻的な造形となって空間をつくり出している。